

平成23年度のコミュニティバス「おでかけ号」の利用状況をお知らせします



国見町・国東町

路線名	運行曜日	平均乗車数 ()は平成22年度との比較
熊毛・長瀬線	月	4.1人 (▲0.6人)
大熊毛・小熊毛線	火	4.2人 (0.6人)
鬼籠・櫛海線	水	4.7人 (▲1.1人)
櫛来線	木	5.1人 (▲0.7人)
向田・浜陽線	金	18.8人 (0.3人)
深江・寺山線	月	10.5人 (0.7人)
堅来線	火	8.2人 (▲1.4人)
赤松線	水	8.2人 (▲2.8人)
小原線	木	3.9人 (0.3人)
治郎丸線	金	5.6人 (▲2.6人)

武蔵町・安岐町

路線名	運行曜日	平均乗車数 ()は平成22年度との比較
山口線	月	6.7人 (▲0.5人)
油留木線	火	6.4人 (0.6人)
志和利線	水	10.0人 (2.6人)
吉松線	木	10.9人 (0.6人)
松ヶ迫・小ヶ倉線	金	18.5人 (▲0.1人)
全路線 合計		8.4人 (▲0.3人)

年間のべ利用者は13,139人で昨年度より362人減少しています。(平均乗車数は、朝の下り便と正午前後の上り便の1往復により算出したものです。)

「ホントに無くなる？ バス交通」

京都大学教授 藤井 聡

東京や大阪などを除くほとんどの地域で、バスよりクルマの方が圧倒的に便利です。数時間に1本しかバスが来ない、という地域は日本中にたくさんあります。しかし、一昔前にはバスはもっと走っていて、お客さんも決して少なくなかったのではないのでしょうか。どうして、こんなことになってしまったのでしょうか？

まず、バスが使われない最大の理由は「バスが不便だから」です。もしも自宅や目的地の近くにバス停があって、しかも、いつも乗りたいときにバスが来ていたら、今よりバスを利用する人はずっと多いでしょう。

では、なぜ、バスはいつも来ないし、いろいろな所にバス停ができないのでしょうか。それは、「お客さんが少なければ、バスをたくさん走らせることができないから」です。例えば、お客さんが1日に10人前後しか乗らないようなバス停に、1時間に5本も10本もバスを走らせたなら採算がとれなくても仕方ないのではないのでしょうか。

つまり、バスが不便なのはお客さんが乗らないからで、お客さんが乗らないのはバスが不便だからなのです。この「悪循環」がここ数十年続いています。このまま続けば、数十年後には一部の地域を除いて日本からバスが無くなっているかもしれません。そんな時代がきてしまったら、クルマの運転ができなくなった高齢者や子ども達はどうすればよいのでしょうか？ 十分に飛行機やJRで来た免許の無い人達は、どうすればよいのでしょうか？

そうなのです。バスの問題は、実は、地域全体の問題なのです。そう考えれば、「1回利用すれば、その分だけ、地域のバスを未来に残せる」と考えて、クルマの代わりに少しずつバスを利用するのも、わるくないのかもしれませんね。
(大分県ホームページ「かしこいクルマの使い方」講座より)

地域の交通手段の確保と地球環境を守るため公共交通を利用しましょう。

問い合わせ 政策企画課 政策企画係 ☎0978-72-5161

平成24・25年度の後期高齢者医療保険料率が決まりました

大分県における平成24・25年度の保険料率

	平成22・23年度	平成24・25年度	比較
均等割額	47,100円	48,500円	+1,400円
所得割率	8.78%	9.52%	+0.74ポイント
賦課限度額	50万円	55万円	+5万円

後期高齢者医療の保険料については2年ごとに見直しを行っています。今後2年間、さらなる高齢化の進行や医療費の増加が見込まれることから、上記のとおり保険料率を引き上げることとなりました。

今回の引き上げは、後期高齢者医療制度を安定的に維持することで、被保険者が安心して医療を受けることができるようにするものです。ご負担をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

問い合わせ 大分県後期高齢者医療広域連合 ☎097-534-1771 (代表)
市民健康課 国保年金係 ☎0978-72-1111